

基調講演

講師 澤登早苗(さわのぼり さなえ)氏



恵泉女学園大学名誉教授、自由学園講師

フルーツグローア澤登 共同代表
1959年山梨県生まれ。東京農工大学大学院連合農学研究科修了(農学博士)

有機農業の生産技術、有機農業が有する多面的機能に関する研究・実践・社会活動がライフワーク



『アグロエコロジー』
定価 5,940円(税込)
発行 農山漁村文化協会

澤登早苗先生と浅岡みどり先生は、2023年に日本語訳版が発売された『アグロエコロジー』の翻訳グループのメンバーです。



フルーツグローア澤登
幻のぶどう? 農薬不使用・有機栽培「国立シードレス」

パネルディスカッション

司会 浅岡みどり(あさおかみどり)氏



恵泉女学園大学講師、自由学園講師

Ph.D(立教大学・社会学)
オーガニックの園芸教育がライフワーク。身近な食べ物の Seed to Table、花の Seed to Vaseの過程を持続可能にしていく挑戦を続けていきたい。入間市在住

《地域での取り組み》



武蔵野どうどう農園
須田さんの畑 無農薬・無施肥

入曽の里そば
新鮮な有機野菜と地元産のそば粉でサラダそば



養蜂家 伊東さんの蜂蜜



「大豆一粒運動」狭山市水野地内

食と農まちづくりの会からのメッセージ

かつての農業は、私たちの生活にもっと身近な存在で、人と人とのつながりを保ち、同じ地域に暮らす人々のコミュニティを豊かにしてきました。しかし戦後、耕作をできる限り安定的に継続するため、効率性・合理性を重視した農業政策が推進され、農薬や化学肥料の力を借りる農法が大いに取り入れられました。その結果、人を遠ざけ、環境に大きな負荷をかけることになり、自然の力を最大限に活かす昔ながらの土づくりは姿を潜め、収穫された作物が天地の恵みであることの価値まで薄らいでしまっているのではないかと感じます。美味しく健康に良い農作物の生産者と消費を通じてつながる人々、その信頼の絆が、私たちの食と暮らしを守り、地域のコミュニティを豊かにしてくれるのではないのでしょうか。

生産者と消費者が共に食の大切さを再確認し、農作物を育む自然の力・土の力に目を向けて、農業とは何か、大切なことは何かを考えるきっかけになればと思います。